

# 日本語教科書における自動詞・他動詞の 使用実態について

—— 「I-JAS」, 「BCCWJ」と比較して——

吉 岡 吉 子

[キーワード：①『みんなの日本語』 ②自動詞 ③他動詞 ④自動詞と  
他動詞の誤用 ⑤「多言語母語の日本語学習者横断コー  
パス (I-JAS)」]

## 1. はじめに

日本語学習者にとって「ドアが開く」「ドアを開ける」のような「対のある自動詞」「対のある他動詞」の習得は難しいとされている(守屋1994; 小林1996; 小林・直井1996)。

学習者の自他動詞の習得は、教科書でどのようなインプットを受けたのかということが重要だと考える。例えば、教科書での出現頻度が高ければ、インプット<sup>1)</sup>の機会が多くなるため、学習者の誤用も少なくなるはずである。つまり、日本語教科書の自他動詞の出現頻度と学習者の誤用とは関係があるのではないだろうか。

本稿では対のある自他動詞について、「日本語教科書における出現頻度」、「学習者の使用実態」、「現代での出現頻度」の3つを比較し、これらの自他動詞の使用傾向を調査する。また、日本語教科書で出現回数の少ない自

他動詞は、学習者の習得にどのような影響を与えるのか、現代での使用実態とどのような関係があるのかについても考察していく。

本稿の構成は以下の通りである。2節では、日本語教育における対のある自他動詞に関する先行研究を取り上げる。3節では、今回調査する対のある自他動詞を確認し、『みんなの日本語 初級 I・II』（以下、『みんな日』）、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」（以下、「I-JAS」）、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下、「BCCWJ」）の3つの資料の調査概要を述べる。4節では、『みんな日』『I-JAS』『BCCWJ』3つの資料の自他動詞の出現数から各資料の特徴について述べる。5節では、『みんな日』に出てくる対のある自他動詞のうち、出現頻度が1回のみの特徴的な自他動詞について述べる。6節では、学習者が間違えやすい自他動詞の中から、誤用率の高い自動詞「続く」について述べる。最後に、7節で結論と今後の研究課題についてまとめる。

## 2. 研究背景

### 2.1 対のある自他動詞について

対応のある自動詞、他動詞について、西尾（1982）は「同一事態について自動詞による表現と他動詞による表現が成り立ち、「ヲ+他動詞」「ガ+自動詞」という格助詞の対応がみられ、ガとヲの前には同一の名詞が呼応する、という構文論的な性質をとる」と定義している。

寺村（1982）では、形態的な対応のある自動詞、他動詞は、共時的に見て、ある共通の語根（Root）から派生したものとし、「相対自動詞」、「相対他動詞」と呼んでいる。

中石（2004）は、寺村（1982）による相対自動詞・他動詞に加え、語根（Root）を共有していないものの初級教科書において対応のある自他動詞として指導される「入る—入れる」を含めて「対のある自動詞」「対のあ

る他動詞」と呼んでいる。

本稿では、中石（2004）にならい、調査対象とする対応のある自動詞・他動詞を「対のある自動詞」「対のある他動詞」と呼ぶ<sup>2)</sup>。

## 2.2 先行研究

対のある自他動詞の習得に関する代表的な先行研究に守屋（1994）、小林（1996）、小林・直井（1996）がある。

守屋（1994）、小林（1996）、小林・直井（1996）は日本語学習者にとって、対のある自他動詞の習得は難しく、特に自動詞の使用が困難であることを述べている。さらに、小林（1996）、小林・直井（1996）は、自動詞の働きかけの結果の状態を表す表現が難しいことを指摘している。

これらの先行研究は、日本語学習者の対のある自他動詞の使用実態を明らかにしているが、自他選択のその学習の基礎となる教科書での分析は行われていない。また、学習者が使用する自他動詞が現代でどれほど使われているのか、現代での使用実態についても明らかにする余地が残されている。

自他動詞の選択について日本語教科書を使った分析を行っている先行研究に中石（2002）がある。中石（2002）は初級日本語教科書に出てくる自他動詞の扱われ方と用法に注目し、そこから自他動詞を習得するための語用論的観点に及んだ指導法を提案している。

中石（2002）は学習者の自他動詞の習得について、その学習の基礎となる日本語教科書を用いた分析を行っている。しかし、教科書でどのような自他動詞のインプットがあるのかについて、教科書全体でどれほど自他動詞が用いられているのかその具体的な点に及んだ研究はされておらず、日本語教科書での自他動詞の出現頻度を分析する必要があると考える。

よって、本稿では、対のある自他動詞について、「日本語教科書におけ

る使用実態」、「学習者の使用実態」、「現代での使用実態」を比較し、考察していく。

### 3. 調査概要

#### 3.1 調査対象とする対のある自他動詞

調査で使用する資料は、①初級日本語教科書『みんなの日本語 初級 I・II』、②「多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)」、③「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」の3つである。今回、『みんな日』で出てくる対のある自他動詞を調査対象とし、②③の資料を用いて調査を進めていく。

『みんな日』では対のある自動詞が39個、対のある他動詞が38個出現している(【表1】)。『みんな日』で出てくる自動詞のうち、「終わる」「生まれる」「泊まる」「破れる」「倒れる」「曲がる」「覚める」「下がる」「外れる」「亡くなる」「残る」の11個の自動詞は、対のある自動詞ではあるが、『みんな日』ではペアとなる他動詞が出現しなかったものである(【表1】下線の自動詞)。この11個以外のその他の自動詞「起きる」「入る」等はペアとなる他動詞が『みんな日』に出現している。

同様に「建てる」「決める」「切る」「育てる」「換える」「回す」「混ぜる」「取り替える」「乗り換える」「直す」の10個の他動詞は対のある他動詞ではあるが、ペアとなる自動詞が『みんな日』に出現しなかったものである(【表1】下線の他動詞)。この10個以外の他動詞は、『みんな日』でペアとなる自動詞が出現している。『みんな日』で出てくる自動詞、他動詞のうち、ペアとなる自他動詞が出現しているペアは全部で28組ある。

今回、「I-JAS」「BCCWJ」でも対のある自他動詞の調査を行うが、『みんな日』で出てくる対のある自動詞39個と対のある他動詞38個を調査対象とし、「I-JAS」「BCCWJ」でも調査していく。

【表 1】『みんなの日本語』における自動詞・他動詞の出現数

自動詞【39】		
用例	出現数	割合
起きる	39	95%
入る	38	58%
出る	34	58%
かかる	21	43%
始まる	14	45%
つく	13	32.50%
壊れる	10	77%
止まる	9	33%
開く	7	29%
消える	7	33%
変わる	7	87.50%
戻る	7	70%
割れる	6	86%
汚れる	6	60%
落ちる	6	75%
焼ける	4	44%
集まる	4	33%
片づく	3	18%
閉まる	3	18%
届く	3	75%
たつ	2	50%
折れる	2	67%
続く	2	22%
並ぶ	2	22%
売れる	2	22%
見つかる	2	67%
無くなる	1	8%
上がる	1	50%
終わる	30	—
生まれる	18	—
泊まる	8	—
破れる	7	—
倒れる	5	—
曲がる	4	—
覚める	3	—
下がる	3	—
外れる	2	—
亡くなる	1	—
残る	1	—

他動詞【38】		
用例	出現数	割合
起こす	2	5%
入れる	28	42%
出す	25	42%
かける	28	57%
始める	17	55%
つける	27	67.50%
壊す	3	23%
止める	18	67%
開ける	17	71%
消す	14	67%
変える	1	12.50%
戻す	3	30%
割る	1	14%
汚す	4	40%
落とす	2	25%
焼く	5	56%
集める	8	67%
片づける	14	82%
閉める	14	82%
届ける	1	25%
たてる	2	50%
折る	1	33%
続ける	7	78%
並べる	7	78%
売る	7	78%
見つける	1	33%
無くす	11	92%
上げる	1	50%
建てる	19	—
決める	7	—
切る	5	—
育てる	5	—
換える	4	—
回す	3	—
混ぜる	2	—
取り替える	2	—
乗り換える	2	—
直す	1	—

## 3.2 調査資料と調査概要

### 3.2.1 『みんなの日本語』における調査概要

初級日本語教科書『みんなの日本語 初級 I・II』（第2版）に出てくる対のある自他動詞の出現頻度を調査する。

今回、調査対象とする『みんなの日本語』は、日本語学校でよく使用される代表的な日本語教科書であるため調査対象とした。また、日本語学習者が対のある自他動詞に関するインプットを最初に得るであろう「初級」の教科書を調査する。

『みんなの日本語』は、全50課からなる総合教科書で、「文型」「例文」「会話」「練習 A・B・C」「問題」等で構成されている。分析は、教科書の各課（全50課）に出てくる対のある自動詞・他動詞を対象とした。また、インプットの数が重要であると考え、出現回数は延べ語数で数える。

### 3.2.2 「I-JAS」における調査概要

学習者の対のある自他動詞の使用実態を調査していく。調査は『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を利用して行う。

「I-JAS」には、日本語学習者の発話と作文のデータが収録されており、①ストーリーテリング（2タスク）、②対話（約30分間）、③ロールプレイ（2タスク）、④絵描写、⑤ストーリーライティング（2タスク）、⑥メール文（3タスク）、⑦エッセイの7種類12のタスクを行っているのが特徴である<sup>3)</sup>。

「I-JAS」の対象者は以下の3つで、①海外の教室環境学習者、②国内の教室環境学習者、③国内の自然環境学習者が対象である。②国内の教室環境学習者は初級の段階で来日し、日本における教育機関で1年以上日本語を体系的に学んでいる学習者で、主に日本語学校の学生や、日本の大学に

留学している大学生である。今回の調査では、国内の教室環境学習者 (35名) を調査対象とした。

本稿はコーパスとして、国立国語研究所で制作された『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を使用して用例を収集し、検索ツール「中納言 2.4.2 短単位データ 20180502 版」で検索した。短単位検索を使用し、例えば自動詞「起きる」を検索する場合はキーを「語彙素 が 起きる」という指示で検索した。I-JAS で調査対象とする自他動詞は、『みんな』で出てきた対のある自動詞 39 個と対のある他動詞 38 個である。

本調査では、対象とする各自他動詞の用例数を出し、自他誤用に関する用例を分析した。自他誤用に関する用例とは、学習者が自他動詞を選択する際に生まれる以下のような誤用である。

- (1) 二人の、話を續いて、その時は奥さんを、目を覚めて、起きまし  
た  
ベトナム語      25      女性      学生 <ストーリーテリング 2>

用例 (1) は自動詞「起きる」に関する自他誤用である。「奥さんが起きました」とすべきところを「奥さんを起きました」にするといった格助詞の間違いをしている。

- (2) あー地図をみ見てる時、んーい、犬は、犬はバスケットにえー入  
れました  
中国語    24      男性      学生 <ストーリーテリング 1>

用例 (2) は他動詞「入れる」に関する自他誤用である。「犬はバスケットに入りました」のように自動詞「入る」を用いるべきところ、他動詞

「入れる」を用いている。これは他動詞「入れる」の自動詞との混同による間違いである。

### 3. 2. 3 「BCCWJ」における調査概要

今回調査する対のある自他動詞は、日本語教科書と学習者の使用実態での調査を行うが、それらの自他動詞を日本人はどの程度使用しているのかという現代での使用実態も調査していく。

調査はコーパスとして国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を使用し、用例を収集した。検索ツール「中納言 2.4 データバージョン 1.1」で検索した。短単位検索を使用し、例えば自動詞「起きる」を検索する場合はキーを「語彙素 が 起きる」という指示で検索した。BCCWJで調査対象とする自他動詞は、『みんな日』で出てきた対のある自動詞 39 個と対のある他動詞 38 個である。

今回の調査では、「BCCWJ」の用例数から、『みんな日』『I-JAS』と比較し、自他動詞の考察を行う。

以下の【表 2】は、『みんな日』の出現回数、「I-JAS」の用例数、自他誤用、自他誤用率、「BCCWJ」の用例数を自動詞、他動詞でまとめたものである。



【表 2】自動詞・他動詞の用例数と自他の割合

自動詞【39】							
用例	みん日		I-JAS			BCCWJ	
	出現数	割合	用例数	自他誤用	誤用率	用例数	割合
起きる	39	95%	138	2	1.44%	10,799	53%
入る	38	58%	407	32	7.86%	58,543	60%
出る	34	58%	130	10	7.69%	80,695	62%
かかる	21	43%	77	5	6.49%	34,223	46%
始まる	14	45%	11	3	27.27%	14,746	32%
つく	13	32.50%	50	2	4.00%	44,047	50%
壊れる	10	77%	59	5	8.47%	2,409	58%
止まる	9	33%	13	4	30.76%	6,722	41%
開く	7	29%	11	1	9.09%	19,240	64%
消える	7	33%	2	0	0%	7,905	64%
変わる	7	87.50%	56	17	30.35%	29,331	65%
戻る	7	70%	35	1	2.85%	18,793	82%
割れる	6	86%	20	1	5.00%	1,423	40%
汚れる	6	60%	3	0	0%	1,818	74%
落ちる	6	75%	30	0	0%	9,584	61%
焼ける	4	44%	0	0	0%	1,318	19%
集まる	4	33%	20	3	15.00%	6,860	50%
片づく	3	18%	0	0	0%	390	18%
閉まる	3	18%	4	0	0%	647	28%
届く	3	75%	3	0	0%	7,016	75%
たつ	2	50%	9	0	0%	22,598	63%
折れる	2	67%	5	0	0%	1,359	52%
続く	2	22%	8	7	87.50%	20,041	43%
並ぶ	2	22%	4	1	25.00%	7,485	66%
売れる	2	22%	1	0	0%	3,102	26%

見つかる	2	67%	7	1	14.28%	5,206	36%
無くなる	1	8%	29	2	6.89%	10,055	80%
上がる	1	50%	12	0	0%	11,371	23%
終わる	30	—	124	10	8.06%	19,244	—
生まれる	18	—	30	1	3.33%	15,121	—
泊まる	8	—	4	0	0%	2,437	—
破れる	7	—	13	0	0%	804	—
倒れる	5	—	110	15	13.63%	3,315	—
曲がる	4	—	1	0	0%	2,041	—
覚める	3	—	5	2	40.00%	1,655	—
下がる	3	—	2	0	0%	4,563	—
外れる	2	—	0	0	0%	2,265	—
亡くなる	1	—	8	0	0%	4,069	—
残る	1	—	26	1	3.84%	15,751	—

他動詞【38】							
用例	みんな		I-JAS			BCCWJ	
	出現数	割合	用例数	自他誤用	誤用率	用例数	割合
起こす	2	5%	5	1	20.00%	9,462	47%
入れる	28	42%	109	9	8.25%	38,409	40%
出す	25	42%	25	3	12.00%	49,359	38%
かける	28	57%	52	4	7.69%	40,490	54%
始める	17	55%	13	3	23.07%	30,770	68%
つける	27	67.50%	50	2	4.00%	44,215	50%
壊す	3	23%	0	0	0%	1,735	42%
止める	18	67%	5	1	20.00%	9,626	59%
開ける	17	71%	100	3	3.00%	10,838	36%
消す	14	67%	6	2	33.33%	4,431	36%
変える	1	12.50%	4	0	0%	15,971	35%

日本語教科書における自動詞・他動詞の使用実態について（吉岡吉子）

戻す	3	30%	1	1	100%	4,232	18%
割る	1	14%	3	3	100%	2,117	60%
汚す	4	40%	0	0	0%	634	26%
落とす	2	25%	5	0	0%	6,107	39%
焼く	5	56%	12	0	0%	5,792	81%
集める	8	67%	9	6	66.66%	6,811	50%
片づける	14	82%	4	0	0%	1,772	82%
閉める	14	82%	10	1	10.00%	1,699	72%
届ける	1	25%	0	0	0%	2,391	25%
たてる	2	50%	0	0	0%	13,447	37%
折る	1	33%	1	0	0%	1,236	48%
続ける	7	78%	12	2	16.66%	27,042	57%
並べる	7	78%	3	0	0%	3,782	34%
売る	7	78%	10	1	10.00%	9,000	74%
見つける	1	33%	15	1	6.66%	9,264	64%
無くす	11	92%	0	0	0%	2,518	20%
上げる	1	50%	1	1	100%	38,103	77%
建てる	19	—	6	0	0%	3,224	—
決める	7	—	33	2	6.06%	14,049	—
切る	5	—	32	1	3.12%	23,697	—
育てる	5	—	9	4	44.44%	5,510	—
換える	4	—	0	0	0%	437	—
回す	3	—	0	0	0%	4,595	—
混ぜる	2	—	5	1	20.00%	3,491	—
取り替える	2	—	0	0	0%	779	—
乗り換える	2	—	2	0	0%	668	—
直す	1	—	2	0	0%	2,868	—

#### 4. 出現数からみる資料の特徴

本節では『みんな日』『BCCWJ』『I-JAS』における自他動詞の数から、各資料の特徴について述べる。『みんな日』の自他動詞の出現数、「BCCWJ」の自他動詞の用例数、「I-JAS」の自他動詞の用例数と誤用数をまとめた表が以下である。

まず、『みんな日』の自他動詞の出現数をみていく。

出現数は自動詞 337、他動詞 319 で、自他割合は「51%：49%」だった。この結果から、『みんな日』における教科書全体の出現数に自動詞と他動詞の間ではほぼ差はみられないことが分かる。

次に「BCCWJ」の自他動詞の用例数をみていく。

用例数は自動詞 508991、他動詞 450571 で、自他割合は「53%：47%」だった。この結果から「BCCWJ」の自他動詞全体の使用実態としては、自動詞・他動詞の間ではほぼ差はみられないことが分かる。

次に「I-JAS」の自他動詞の用例数と誤用数をみていく。

用例数は自動詞 1467、他動詞 544 で、自他割合は「73%：27%」だった。また、誤用数は自動詞 126、他動詞 52 で、自他割合は「71%：29%」だった。

この結果から、自他動詞の間で使用率に差がみられ、自動詞の方が学習者は用いる傾向にあることが分かる。また、自他誤用率も自動詞の方が高い。よって学習者は全体として自動詞を用いる傾向にあるが、自他誤用も自動詞の方が高い傾向にあるといえる。

以上、『みんな日』『BCCWJ』『I-JAS』における自他動詞の数を比べてみると、『みんな日』と「BCCWJ」の自他割合は似ており、自他動詞の間ではほぼ使用に差はないといえる。対して、「I-JAS」は用例数・誤用数ともに自動詞の割合が高かった。

	『みんな日』	「BCCWJ」	「I-JAS」	
	出現数	用例数	用例数	誤用数
自動詞	337 (51%)	508991 (53%)	1467 (73%)	126 (71%)
他動詞	319 (49%)	450571 (47%)	544 (27%)	52 (29%)
合計	656	959562	2011	178

以上のことから、『みんな日』の教科書と実際に使われる日本語の自他傾向は似ており、ほぼ自動詞の使用数に差がない傾向にあるのに対して、学習者は自動詞を好んで使い、かつ誤用も自動詞の方が多いといえる。

### 5. 特徴的な自動詞・他動詞

『みんな日』に出てくる自他動詞のうち、出現頻度が1回のみ自動詞・他動詞がある。以下の【表3】は、調査対象とする『みんな日』に出てくる自動詞39個、他動詞38個を出現数の多い順にまとめたものである。「起きる」「起こす」等のペアとなる自他動詞が『みんな日』に出現しなかった自動詞（「終わる」「生まれる」等）、他動詞（「建てる」「決める」等）には【表1】同様に下線を付した。

出現数が1回の自動詞は「無くなる」「上がる」「亡くなる」「残る」の4つである。『みんな日』で出てきた各1例は以下の通りである。

(3) ガソリンが なくなります

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第43課、練習B、p.149)

(4) ことは 米の 値段が 上がります

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第43課、練習B、p.149)

(5) お母さんが 亡くなりました

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第47課、練習C、p.185)

【表 3】『みんなの日本語』における自動詞・他動詞（出現数の多い順）

自動詞【39】	
用例	出現数
起きる	39
入る	38
出る	34
終わる	30
かかる	21
生まれる	18
始まる	14
つく	13
壊れる	10
止まる	9
泊まる	8
開く	7
消える	7
変わる	7
戻る	7
破れる	7
割れる	6
汚れる	6
落ちる	6
倒れる	5
焼ける	4
集まる	4
曲がる	4
片づく	3
閉まる	3
届く	3
覚める	3
下がる	3
たつ	2
折れる	2
続く	2
並ぶ	2
売れる	2
見かかる	2
外れる	2
無くなる	1
上がる	1
亡くなる	1
残る	1

他動詞【38】	
用例	出現数
入れる	28
かける	28
つける	27
出す	25
建てる	19
止める	18
始める	17
開ける	17
消す	14
片づける	14
閉める	14
無くす	11
集める	8
続ける	7
並べる	7
売る	7
決める	7
焼く	5
切る	5
育てる	5
汚す	4
換える	4
壊す	3
戻す	3
回す	3
起こす	2
落とす	2
たてる	2
混ぜる	2
取り替える	2
乗り換える	2
変える	1
割る	1
届ける	1
折る	1
見つける	1
上げる	1
直す	1

(6) ビールが 何本 残って いますか

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第40課、練習B、p.123)

次に、出現数が1回他動詞は「変える」「割る」「届ける」「折る」「見つける」「上げる」「直す」の7つである。『みんな日』で出てきた各1例は以下の通りである。

(7) 紙の サイズを 変えたい とき、どう しますか。

(みんなの日本語 初級Ⅰ、第23課、練習C、p.201)

(8) チキンラーメンを小さく割って、紙コップに入れて、お湯を注いで、フォークで食べました

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第42課、問題、p.145)

(9) 書類を 届けました

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第48課、練習B、p.191)

(10) 紙を 折ります

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第34課、練習B、p.71)

(11) 外国で 仕事を みつけようと 思っ ています。

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第31課、練習A、p.46)

(12) 暖房の 温度を 上げます

(みんなの日本語 初級Ⅱ、第41課、練習B、p.134)

(13) わたしは 山田さんに レポートを 直して もらいました。

(みんなの日本語 初級Ⅰ、第24課、文型、p.204)

上記の一度しか『みんな日』に出てこなかった自他動詞はどのような特徴があるのか。「I-JAS」、「BCCWJ」との出現頻度と比較し、考察していく。

## 5.1 出現数1回の自動詞

『みんな日』で出現数1回の自動詞は「無くなる」「上がる」「亡くなる」「残る」の4つである。以下の【表4】は「I-JAS」での調査結果をまとめたもので、自動詞・他動詞それぞれを誤用率の高い順に並べたものである。

【表4】をみると「無くなる」「上がる」「亡くなる」「残る」の誤用率が低いことがわかる。「無くなる」は誤用率が6.89%あるが、用例数29例に対して誤用数は2例である。また、「残る」の誤用率も3.84%と低く、用例数26例に対して誤用数は1例である。以下、「無くなる」の自他誤用2例と「残る」の自他誤用1例である。

- (14) 残念ながら、ん、あー努力していたのに、えー、食べ物を、なくな  
ってしまいました

スペイン語 43 女性 学生 〈ストーリーテリング1〉

- (15) て、ん出てきて、い、あー、朝食を、全部、なんか、なくな  
ってた、ということ、んその、その、感じて

英語 17 男性 学生 〈ストーリーテリング1〉

- (16) から昔をそのことをしてた、ので、んーほんとにー、いい記憶  
を残りました

中国語 21 女性 学生 〈対話〉

「上がる」は用例数12例に対して誤用数は0、「亡くなる」も用例数8例に対して誤用数0である。以上のことから、『みんな日』で出現数が1回と少ないインプットであっても、学習者は間違えにくい傾向にあると考えられる。

次に「BCCWJ」の用例数をみる。以下の【表5】は「BCCWJ」での自



【表4】「I-JAS」における自動詞・他動詞（誤用率の高い順）

自動詞				他動詞			
用例	用例数	自他誤用	誤用率	用例	用例数	自他誤用	誤用率
続く	8	7	87.50%	戻す	1	1	100%
覚める	5	2	40.00%	割る	3	3	100%
止まる	13	4	30.76%	上げる	1	1	100%
変わる	56	17	30.35%	集める	9	6	66.66%
始まる	11	3	27.27%	育てる	9	4	44.44%
並ぶ	4	1	25.00%	消す	6	2	33.33%
集まる	20	3	15.00%	始める	13	3	23.07%
見つかる	7	1	14.28%	起こす	5	1	20.00%
倒れる	110	15	13.63%	止める	5	1	20.00%
開く	11	1	9.09%	混ぜる	5	1	20.00%
壊れる	59	5	8.47%	続ける	12	2	16.66%
終わる	124	10	8.06%	出す	25	3	12.00%
入る	407	32	7.86%	閉める	10	1	10.00%
出る	130	10	7.69%	売る	10	1	10.00%
無くなる	29	2	6.89%	入れる	109	9	8.25%
かかる	77	5	6.49%	かける	52	4	7.69%
割れる	20	1	5.00%	見つける	15	1	6.66%
つく	50	2	4.00%	決める	33	2	6.06%
残る	26	1	3.84%	つける	50	2	4.00%
生まれる	30	1	3.33%	切る	32	1	3.12%
戻る	35	1	2.85%	開ける	100	3	3.00%
起きる	138	2	1.44%	壊す	0	0	0%
消える	2	0	0%	変える	4	0	0%
汚れる	3	0	0%	汚す	0	0	0%
落ちる	30	0	0%	落とす	5	0	0%
焼ける	0	0	0%	焼く	12	0	0%
片づく	0	0	0%	片づける	4	0	0%
閉まる	4	0	0%	届ける	0	0	0%
届く	3	0	0%	たてる	0	0	0%
たつ	9	0	0%	折る	1	0	0%
折れる	5	0	0%	並べる	3	0	0%
売れる	1	0	0%	無くす	0	0	0%
上がる	12	0	0%	建てる	6	0	0%
泊まる	4	0	0%	換える	0	0	0%
破れる	13	0	0%	回す	0	0	0%
曲がる	1	0	0%	取り替える	0	0	0%
下がる	2	0	0%	乗り換える	2	0	0%
外れる	0	0	0%	直す	2	0	0%
亡くなる	8	0	0%				

【表5】「BCCWJ」における自動詞・他動詞（用例数の多い順）

自動詞		他動詞	
	用例	用例	用例数
1	出る	1	出す
2	入る	2	つける
3	つく	3	かける
4	かかる	4	入れる
5	変わる	5	上げる
6	たつ	6	始める
7	続く	7	続ける
8	終わる	8	切る
9	開く	9	変える
10	戻る	10	決める
11	残る	11	たてる
12	生まれる	12	開ける
13	始まる	13	止める
14	上がる	14	起こす
15	起きる	15	見つける
16	無くなる	16	売る
17	落ちる	17	集める
18	消える	18	落とす
19	並ぶ	19	焼く
20	届く	20	育てる
21	集まる	21	回す
22	止まる	22	消す
23	見つかる	23	戻す
24	下がる	24	並べる
25	亡くなる	25	混ぜる
26	倒れる	26	建てる
27	売れる	27	直す
28	泊まる	28	無くす
29	壊れる	29	届ける
30	外れる	30	割る
31	曲がる	31	片づける
32	汚れる	32	壊す
33	覚める	33	閉める
34	割れる	34	折る
35	折れる	35	取り替える
36	焼ける	36	乗り換える
37	破れる	37	汚す
38	閉まる	38	換える
39	片づく		

他動詞の用例数を多い順に並べたものである。

全 39 番中、「残る」は 11 番目、「上がる」は 14 番目、「無くなる」は 16 番目、「亡くなる」は 25 番目の用例数である。『みんな日』では 4 つの自動詞はすべて出現頻度が 1 回ではあったが、日常ではほぼ用いられない自動詞というわけではないようである。

## 5.2 出現数 1 回他動詞

『みんな日』で出現頻度 1 回他動詞は「変える」「割る」「届ける」「折る」「見つける」「上げる」「直す」の 7 つである。【表 4】をみると出現数 1 回他動詞は誤用率の高いものと誤用率の低いものに分かれている。「割る」、「上げる」は誤用率 100% と高いが、「割る」は用例数 3 例に対して誤用数 3 例、「上げる」が用例数 1 例に対して誤用数 1 例と用例数が少ないため、誤用率が高く出ている可能性がある。以下は、「割る」の自他誤用 3 例と「上げる」の自他誤用 1 例である。

(17) 窓も一、右側も、割っていますね

中国語 32 男性 学生 〈絵描写〉

(18) コップが割りました

中国語 21 女性 学生 〈絵描写〉

(19) あこの家の窓のガラスも、割りました

中国語 21 女性 学生 〈絵描写〉

(20) 日本語の力も上げます

中国語（台湾） 25 男性 学生 〈ロールプレイ 2〉

「見つける」の誤用率は 6.66% あるが、用例数 15 例に対して誤用数は 1 例である。以下、「見つける」の自他誤用 1 例である。

(21) どうしようかなと思ったら、梯子を見つけました。

中国語 25 女性 非学生 <ストーリーライティング2>

その他の他動詞「変える」「届ける」「折る」「直す」は誤用率0%である。以上、「I-JAS」の結果をみると、『みんな日』で出現数が1回他動詞は誤用率が高いものもあれば、誤用率の低いものもあるといえる。

次に「BCCWJ」の用例数をみる。【表5】をみると、全38番中、「上げる」は5番目、「変える」は9番目、「見つける」は15番目、「直す」は27番目、「届ける」は29番目、「割る」は30番目、「折る」は34番目の用例数だった。『みんな日』で出現頻度が1回他動詞は、日常で多く用いられているものもあれば、使用頻度の少ないものもあるといえる。

### 5.3 まとめ

以上、『みんな日』で出現数が1回の自他動詞について述べた。以下の表は、『みんな日』で出現回数1回の自他動詞について、「I-JAS」「BCCWJ」のデータをまとめたものである。

自動詞「無くなる」「上がる」「亡くなる」「残る」の4つは、学習者の誤用率が低く、「BCCWJ」の用例数は少なくはなかった。

対して、他動詞「変える」「割る」「届ける」「折る」「見つける」「上げる」「直す」の7つは、学習者の誤用率が高いものもあれば、低いものもあった。また、「BCCWJ」の用例数も多いものもあれば少ないものもあった。

よって、今回の調査からは、自動詞は『みんな日』で出現数が1回と少ないインプットであっても、学習者は間違えにくい傾向にあること。そして、『みんな日』では1回しか用いられていなくても、日常で使用頻度が少ない

【表 6】『みんな』における出現数 1 回の自動詞・他動詞

自動詞				
用例	I-JAS			BCCWJ
	用例数	自他誤用	誤用率	用例数
無くなる	29	2	6.89%	10,055 【16】
残る	26	1	3.84%	15,751 【11】
上がる	12	0	0%	11,371 【14】
亡くなる	8	0	0%	4,069 【25】

他動詞				
用例	I-JAS			BCCWJ
	用例数	自他誤用	誤用率	用例数
割る	3	3	100%	2,117 【30】
上げる	1	1	100%	38,103 【5】
見つける	15	1	6.66%	9,264 【15】
変える	4	0	0%	15,971 【9】
届ける	0	0	0%	2,391 【29】
折る	1	0	0%	1,236 【34】
直す	2	0	0	2,868 【27】

というわけではないといえる。

他動詞は『みんな』で出現数が 1 回であっても学習者が間違えやすいと考えられる他動詞（「割る」「上げる」）もあれば、学習者が間違えにくい他動詞（「変える」「届ける」「折る」「見つける」「直す」）もあるといえる。また、日常でも使用頻度の高いものもあれば低いものもあることがわかった。

また、出現回数 1 回の他動詞「割る」「上げる」は自他誤用率 100% で

あり、BCCWJでは「割る」は全38番中30番目、「上げる」に関しては5番目に多い用例数だった。このことから、『みん日』で出現回数1回のお他動詞「割る」「上げる」は、学習者が間違えやすいと考えられるため、教科書での出現回数を増やすべき他動詞であるといえる。

## 6. 学習者が間違えやすい自動詞「続く」

【表4】をみると、「続く」は誤用率87.5%と自動詞の中で最も誤用率が高いことが分かる。対してペアとなる他動詞「続ける」の誤用率は16.66%と「続く」ほど誤用率が高くない。誤用率を比べると学習者にとって自動詞「続く」は間違えやすい動詞だといえる。以下は「続く」の自己誤用7例である。

(22) (じゃあ調査のIDお願いします) はい、JJC12 (はい) あっ、続きますか？

ベトナム語 27 男性 学生 <ストーリーテリング1>

(23) なんか今一、なんか経営することで一、なんか、続いて、なんか一、なんか成長させたいとか、

中国語 21 男性 学生 <対話>

(24) 三回は、んーあー、試験が終わったら、あ、ちゅ、続きます

ベトナム語 26 男性 学生 <ロールプレイ1>

(25) 三回は、んーあー、試験が終わったら、あ、ちゅ、続きます、ちゅ、続きます

ベトナム語 26 男性 学生 <ロールプレイ1>

(26) その時は警察を見られて、声をかけました。で二人の、話を続いて、その時は奥さんを、目を覚めて、起きました

ベトナム語 25 女性 学生 <ストーリーテリン

グ 2〉

- (27) まだまだと思いますから、えっとそんなに、多く、ないと、  
思いますから、続いて、大学院に入りたいに、

中国語 33 女性 学生 〈対話〉

- (28) 勉強ししたいと思います、その、今の、ことを、すす、続いて  
います

中国語 22 男性 学生 〈ロールプレイ 2〉

いずれの誤用も他動詞「続ける」を用いるべきところに自動詞「続く」を用いている。『みんな日』での出現回数をみると(表1)、「続く」は2回、「続ける」は7回で自他割合は「22% : 78%」と自動詞「続く」の出現回数は少ない。「BCCWJ」の用例をみると(表5)、「続く」は用例数20041で7番目に多く、「続ける」は用例数27042で7番目に多い。このことから、「続く」「続ける」ともに日常で比較的良好によく用いられる自他動詞であるといえる。対して、「続く」は学習者の誤用率が高く、『みんな日』での出現回数は2回と少ない。以上のことから、自動詞「続く」は学習者が間違えやすい動詞であるため、『みんな日』での出現回数を増やすべきであると考えられること、また、「続く」を学習者は間違えやすいことを考慮して教師は教える必要があるだろう。

## 7. おわりに

本稿では、日本語教科書における対のある自他動詞の使用実態について、『みんな日』、「I-JAS」、「BCCWJ」の3つの資料を比較し考察した。

調査した『みんな日』に出てくる対のある自動詞39個と対のある他動詞38個は、ペアとなる自他動詞が28組あり、ペアのない自動詞が11個、ペアのない他動詞が10個あった。

調査により、以下の2点が明らかになった。

- (1) 『みんな日』の教科書と実際に使われる日本語の自他傾向は似ており、ほぼ自他動詞の使用数に差がない傾向にあるのに対して、学習者は自動詞を好んで使い、かつ誤用も自動詞の方が多い。
- (2) 『みんな日』で出現数1回の自動詞は少ないインプットであっても、学習者は間違えにくい傾向にある。そして、日常においても使用頻度が少ないというわけではない。

他動詞は『みんな日』で出現数が1回であっても学習者が間違えやすいと考えられる他動詞もあれば、学習者が間違えにくい他動詞もある。また、日常でも使用頻度の高い他動詞もあれば低い他動詞もある。

今後の課題として、他の日本語教科書や中級、上級など他のレベルの日本語教科書での調査を行う必要がある。また、「I-JAS」の調査結果で得た学習者の自他誤用についての分析、「BCCWJ」の用例の質的調査を行っていく必要がある。

### 【参考文献】

- 奥津敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化転形—自・他動詞の対応—」『国語学』70
- 小林典子 (1996) 「相対自動詞による結果・状態の表現—日本語学習者の習得状況—」『文芸言語研究言語篇』29 筑波大学文藝・言語学系
- 小林典子・直井恵理子 (1996) 「相対自・他動詞の習得は可能か—スペイン語話者の場合—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11 筑波大学留学生教育センター
- 迫田久美子 (2016) 「コーパスを利用した第二言語習得研究の可能性と課題—多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) の構築に向けて—」『第二



- 言語としての日本語の習得研究』19 第二言語習得研究会  
迫田久美子；小西円；佐々木藍子；須賀和香子；細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』06-03 国立国語研究所
- 寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
- 中石ゆうこ（2002）「有対自動詞と有対他動詞の用法とその指導について—初級日本語教科書の分析の結果から—」『広島大学大学院教育学研究紀要 第二部 文化教育開発関連領域』第51号
- 中石ゆうこ（2002）「活用形から見た相対自動詞・相対他動詞の形態」『広島大学日本語教育研究』12 広島大学大学院教育研究科日本語教育講座
- 中石ゆうこ（2003）「対のある自動詞・他動詞の習得研究の動向と今後の課題」『広島大学大学院教育研究科紀要 第二部』52
- 中石ゆうこ（2004）「日本語の記述的研究から独立した習得研究の必要性—日本語学習者による対のある自他動詞の活用形使用を例として—」『日本語文法』4（2）日本語文法学会
- 中石ゆうこ（2005）「学習者は自動詞、他動詞を使い分けているのか？—発話調査を用いた対のある自他動詞に関する習得研究—」『言語学と日本語教育Ⅳ』くろしお出版
- 早津恵美子（1987）「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』6
- 早津恵美子（1989）「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に—」『言語研究』95
- 守屋三千代（1994）「日本語の自動詞・他動詞の選択条件—習得状況の分析を参考に—」『講座日本語教育』29 早稲田大学日本語研究教育センター
- 吉岡吉子（2019）「日本語教科書における自動詞・他動詞の使用実態について—「I-JAS」, 「BCCWJ」と比較して—」（学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻提出）、未公刊修士論文（指導・前田直子教授）

### 【参考資料】

- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ』第2版 スリーエーネットワーク
- スリーエーネットワーク（2013）『みんなの日本語 初級Ⅱ』第2版 スリーエーネットワーク

『多言語母語の日本語学習者の横断コーパス：I-JAS』「中納言」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/ijas/search> (2018年9月25日参照)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』「中納言」

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (2018年9月25日参照)

### 【注】

- 1) 本稿では、日本語教科書の中での出現回数をインプットと暫定的に呼ぶ。
- 2) 対のある自他動詞について、寺村(1982)は「-u-asu型」はそのほとんどが使役態の短縮形と考えてもよい動詞であると指摘している。また、中石(2002)は「降る—降らす」といった他動詞形は「降らせる」の短縮形であり、生産的な使役態の異形態と考えられ、自動詞、他動詞で対をなすと考えなくても良いと指摘している。これらの考えに従い、『みんな日』に出てくる「降る—降らす」、「泣く—泣かす」は調査対象から除外した。
- 3) タスクの内容については、迫田久美子；小西円；佐々木藍子；須賀和香子；細井陽子(2016)「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」参照。

The situation of usage of intransitive verbs and transitive verbs in a Japanese textbook: Comparing with “I-JAS” and “BCCWJ”

YOSHIOKA, Yoshiko

In this paper, we study a frequency of use for pairs of intransitive verbs and transitive verbs. We compare the frequency of use for intransitive verbs and that for transitive verbs in (1) in Japanese text book “Minna No Nihongo”, (2) I-JAS, (3) BCCWJ. We also consider how the pairs of verbs that appear only once in the text book “Minna No Nihongo” are used in I-JAS and BCCWJ.

By these considerations we find the following two points.

(1) The frequencies of use of intransitive verbs and those of transitive verbs are almost the same in “Minna No Nihongo” and BCCWJ.

In I-JAS, students learning Japanese use intransitive verbs more frequently than transitive verbs and mistakes are made more frequently in intransitive verbs than in transitive verbs.

(2) Even the intransitive verbs that are used only once in “Minna No Nihongo” students uses without mistakes, also those are used not necessarily rarely in the dairy life.

As to the transitive verbs appearing only once in “Minna No Nihongo”, students uses some of them without mistakes while some with mistakes, also some of them are used frequently while some are used rarely in dairy life.

(平成 30 年度日本語日本文学専攻 博士前期課程修了)

